みんなで

のりこえよう通信

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　校長室から

令和　2　年　4月　23日　　NO.9

将棋盤の裏の文字

進路に悩んだとき、親父とよくケンカをしました。つかみ合いです。余りの激しさに、向かいに住んでいたおばちゃんが親父との間に割って入ったりして。

不思議なことに、私が就職し働き始めると、そんなことはなかったかのように。お互い早く帰れば、将棋盤を挟んで勝負するようになっていました。だいたい10回指せば7回ぐらい私が勝っていたでしょうか。ある日、親父が六尺の将棋盤を抱えて帰ってきました。名人戦でも使われる大きな分厚い将棋盤です。

さっそく、その将棋盤で対局しました。大枚をはたいた成果でしょうか、その日はまったく勝てない。三回やって三連敗。

親父は大喜びで、将棋盤をひっくり返して、日付を書いた後、「かっかっかっあ、あほのやすおに三連勝」とマジックで書きなぐりました。

その日付から数えて、三年後に親父は、ガンで他界しました。

数年がたち、将棋相手もいなくなりすっかり将棋盤のことも忘れていました。

ある日、一人で幼かった娘三人を子守りしなければならない恐怖の午後がありました。「家の中で遊べ」の命令通り、座敷を走り回っていました。三人はどこで見つけてきたのか小さな台の上で書き物をしています。その台にしていたのがあの将棋盤でした。

子ども好きだった親父は、この三人の孫に会うこともなくいなくなったと将棋盤がささやいているようでした。

戯れに将棋盤をひっくり返すと、あの時の元気な親父が大笑いして出てきた気がして。周りでわいわい騒ぐ子どもたちに囲まれながら、ついに涙があふれてきてとまらなくなりました。≪14年前の学級通信から≫